

# 平成 27 年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

|       |              |
|-------|--------------|
| 受託団体名 | 山形大学附属特別支援学校 |
|-------|--------------|

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

|   |                            |
|---|----------------------------|
|   | Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携） |
| ○ | Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）        |
|   | Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）             |

②モデル校の一覧

| 設置者        | 学校種    | 課程又は障害種 | 学校名（ふりがなを付すこと）                         |
|------------|--------|---------|----------------------------------------|
| 国立大学法人山形大学 | 特別支援学校 | 知的障がい   | やまがただいがくふぞくとくべつしえんがっこう<br>山形大学附属特別支援学校 |

### 2 研究課題

生徒個々のニーズに応じた就労支援のための小中高一貫教育カリキュラムの開発  
ー児童生徒個々の自立と社会参加に向けたキャリア教育の実践ー

### 3 研究の概要

本研究では、前述した「研究課題」にあるように、新たに小学部の児童を含む全校生徒を対象にした児童生徒個々の自立と社会参加に向けたキャリア教育の実践を行った。小学部を加えた理由は、①高等部卒業生進路先の幅広い実態を考慮する。②ワークキャリアに併せてライフキャリアも一緒に培う。③小学部からの系統的な指導を行う、という理由からである。

このことより、本校の場合は高等部の一般就労希望者のみではなく、小学部・中学部・高等部の全ての児童生徒がその場に合った自分の「役割」を適切に果たすために必要な力や、それを身に付けるための方法を探ることを全教員で進めることを目的とした。そのことが、引いては将来的に本校の一般就労率や就労継続年数を少しずつ上げることにも繋がっていくと考える。

今年度の取組として、（１）キャリア教育カリキュラムの実践研究、（２）就労支援プログラムの実践研究、（３）大学と連携した就業機会拡大を図る「デュアルシステム」の実践研究、（４）研修会等の企画・運営の四点を行った。このうち、本校や在籍児童生徒の実態、前年度からの課題などを踏まえ、（１）（４）を重点とした。

本研究により、就労につながる知識・技能・態度の習得など小学部からのキャリア発達の促進を図った。また、指導者の就労支援や作業に係る専門性の向上と技術習得を図るようにした。

## 4 研究の成果

研究の概要に記載した4つの研究の柱に沿って実践してきた。それぞれの柱について、以下の4点が成果として挙げられる。

### (1) キャリア教育カリキュラムの実践研究

高等部卒業までを見越した上での小学部からの一貫した指導のあり方についての検討することができた。これは、就労支援は高等部のみで行われるわけではなく、それを支える基本的な生活習慣等の力は小学校段階からの継続した指導によって培われることを改めて意識するきっかけとなった。

### (2) 就労支援プログラムの実践研究

作業学習の充実、大学施設での実習等を通じた就労支援の充実などを検討することができた。これは、(1)で培われた力について実際に仕事を遂行する技能等を確認することにつながった。また、就職支援コーディネーターを有効活用することができた。

### (3) 大学と連携した就業機会拡大を図る「デュアルシステム」の実践研究

本校でのデュアルシステムの構築や就職支援コーディネーターの職務整理を行うことができた。これは、本校の児童生徒の実態を鑑みた上で、実務的なデュアルシステムの構築につながった。

### (4) 研修会等の企画・運営

キャリア教育の概念を踏まえた研修機会の充実を図ることができた。これは、日々の指導を行う上で必要な知識・技能を学んだり、保護者や関係機関との連携を進めたりすることにつながった。

また、これらの取組を通して、全教員が、キャリア教育の概念と日常の教育活動とを関連させた共通理解の促進を進めることができた。

## 5 課題と今後の方策

本事業の課題は以下の4点である。

### (1) キャリア教育カリキュラムの実践研究

高等部卒業後の一般就労率を上げるための取組として、小学部段階からの継続した指導が必要なことが明らかになったが、日々の教育活動とキャリア教育をより関連させたカリキュラム作りをさらに進めていきたい。

### (2) 就労支援プログラムの実践研究

全学部での作業学習や校内実習への参加は、見学・体験した児童生徒にとっては憧れや意欲につながり、見学・体験を受け入れた生徒にとっては、自信につながったという点で有意義であった。今後実施時期をより検討することが必要である。また、大学との連携をさらに進め、施設の有効活用を行いたい。

### (3) 大学と連携した就業機会拡大を図る「デュアルシステム」の実践研究

本校版のデュアルシステムの構築を行ったが、利用率アップのためには、指導者の専門性の向上、生徒の実態に応じた職種の開拓など、生徒や保護者にとってより魅力的なシステム作りが必要である。

(4) 研修会等の企画・運営

研修会を開催することや研修・視察を行うことは、最新の知識を身に付けたり、先進的な実践に触れたりすることができ、大変有意義であった。しかし、実施時期や参加体制に課題が残った。今後は年間計画の中で計画的に位置付けを行いたい。

※山形大学では「障害」を「障がい」と表記